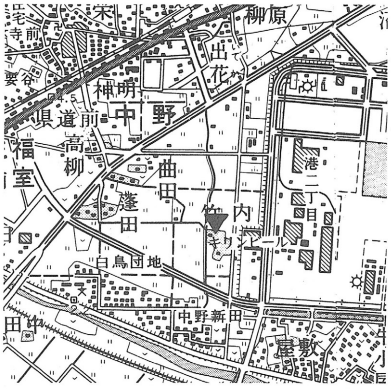
宮城・竹ノ内遺跡

1　所在地　宮城県仙台市宮城野区蒲生字竹ノ内
2　調査期間　二〇〇三年（平15）八月～一〇月
3　発掘機関　宮城県教育委員会
4　調査担当者　村田晃一
5　遺跡の種類　集落跡
6　遺跡の年代　平安時代、江戸時代
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

竹ノ内遺跡は仙台平野の北東部にあり、標高二mの浜堤に立地する。遺跡の南〇・七kmを七北田川が東へ流れ、約二kmで河口に至る。



（仙台・塩竈）

遺跡は東西に細長く、規模は最も広い部分で南北八〇m東西一九〇mあり、面積は約一一六〇〇m²ある。

発掘調査の結果、平安時代の溝一条と江戸時代の屋敷、及びそれより新しい暗渠配水施設を伴う池などを検出した。このうち、近世より新しい遺構は確認にとどめたため、具体的な内容は不明である。

屋敷は幅三mの溝で方形に区画されており、溝は二時期の変遷が認められた。新しい屋敷の規模は、東西五〇m南北三五mと考えられ、古い屋敷の規模も同程度とみられる。溝からは、多くの陶磁器類とともに木製品や金属製品が出土している。木簡は、古い屋敷の南辺を画する溝から出土した。

池は、南北五m東西七mの歪んだ楕円形をしている。暗渠は、池の西端に取り付いており、西へ二m延びたのち、南へ折れる。掘形は幅が二〇cmあり、その内部に節を抜いた径一〇cmの竹筒が埋め込まれていた。掘形が直角に折れる部分は、内部をL字形に刳り抜かれた木製の箱を据え、その穴に竹筒を差し込んで連結していた。池は、遺跡内にあったとされる冷徳寺に関わる遺構とみられる。なお、周辺の表土から、河原石を利用した墓石が二点出土した。

8　木簡の釈文・内容

(1)

「此かしこ□□
藤□□□□
右者
宝永□□〔七年ヵ〕」

306×(158)×41　081

直径二〇cm長さ三〇cmほどの丸太の外縁付近を縦に割って用いている。割面は平坦に削られ、そこに文字が記されている。裏面は樹皮を剝いだだけである。

文書には、場所を示す語句がみられ、末尾に年号が記されている。宝永七年は一七一〇年にあたる。木簡の形状や屋敷の区画溝から出土したことを考えると、野外で使われた土地などに関する表示かと思われる。

（1～7　村田晃一、8　吉野　武）